



今年四月に行った代間交流花植え、ひ孫のすずな
と孫のひかりが、職員とスタッフとで花植えを行いました。

派遣業務の取り扱い開始
平成十六年度の高齢者の改正を受け、当センターも二十四年度から派遣業務の取り扱いができるようになります。指導命令に係る部分も可能になります。

困ったときの知恵袋
私たちを取り巻く環境は安泰といえる状況にはありません。事業仕分けによる補助金の削減など厳しい状況が続いています。

世代間交流花植え

この四月に事務所に近い保育園の園児の皆さんと花植え活動を行いました。会員から見ると、ひ孫にあたり、

お客さまに対しての言葉遣いや態度、また相手の希望なども理解して就業するよう努めています。かかってくるらないでしょう。私たちの周りには、シルバー事業と似たような業務内容の事業所も多くなっています。いつでもお客さまに選んでいただけるようなセンターでありたいと考えています。

筆者のプロフィール



小笠原 憲一

青森県東北町出身、平成4年12月同センター採用。現在、業務課長。

事務局職員奮闘記



いつまでも元気で就業できるように

公益社団法人三沢市シルバー人材センター(青森県)
業務課長 小笠原 憲一

青森県の南東部に位置する三沢市は、唯一極東に米軍基地を抱える町として知られています。九月には航空祭があり、全国の航空ファンが集まります。また、世界初の太平洋無着陸橋断飛行の離陸地として飛行機に開わりのある町でもあります。

東には太平洋を望み、世界的に重要な海地としてラムサール条約に登録された仏沼をはじめ自然にも恵まれています。

高校野球ファンの方であれば存じてでしょう。昭和四十四年、夏の甲子園で延長十八回を投げ抜いた太田幸司選手が在学していた三沢高校があります。また昭和の啄木と呼ばれた鬼才、寺山修司が幼少期に過ごした町でもあり、記念館にはたくさん作品が展示されていますのでどうぞお越しください。

シルバー人材センター誕生
当センターは平成四年十二月に百六十八人の会員で設立されました。当時、公会堂の部屋を借りて会場を準備し設立総会、終了後に懇親会を行いました。

行いました。集まった会員の皆さんに「どうぞこれからもよろしくお願ひします」と、シルバー事業の中身もよく知らなくせに挨拶して回ったことが思い出されます。

年度途中での設立となったので車両、機材、用品などを準備するのが大変で、先輩のセンターの皆さんにいろいろと聞きながら行いました。

がむしやらの時期
当時はさほど忙しくもなく、就業の依頼を受けると現場まで会員を送っていました。朝、センターへ集まり道具を準備して送迎、戻った次の現場へ送迎。「道具が足りない」「ゴミ袋がない」「機材が壊れた」。そんな電話をもらい、何度も現場まで走ったものです。実績を上げよう、と一生懸命でした。

なら作業してあげるよ」と何度も助けられました。

作業途中で会員が体調を崩し、代わりに作業をする会員が見つけられず、お客さまに大迷惑をかけてしまったこともありまして、お客さま宅へ向向き、何度も何度も頭を下げてお詫言、うれしいことよりも、失敗したことの方が記憶に残っています。

会員の死亡事故
十八年に私が担当する現場で作業していた会員が樹木から転落し、内臓の損傷で亡くなる事故が発生しました。当日の朝、いつもとおりに話をして現場へ向かったばかりでした。電話連絡を受けて現場へ急行すると会員が倒れており、病院へ搬送され治療を受けました。私も付き添い、一時は意識も戻り回復したと思ったら脊髄が断裂して、そのまま息を引き取ったのです。

朝は元気に話していた会員が、その日の午後には亡くなるという出来事に大きなショックを受けました。

